

令和6年度 美郷町立西郷義務教育学校 学校評価

学校の教育目標 ふるさとを愛し、未来を拓く子どもの育成

| 質問項目 | 児童生 義務教育 義務教育 | 保護者 幼稚園 | 教員 | 学校の自己評価コメント | 自己評価 | 関係者評価 | 学校関係者コメント | |
|--|---------------------|------------|-----|-------------|--|-------|-----------|---|
| | | | | | | | ○良い | |
| 健 康 ・ 安 全 に 関 す る こ と 7 学校は、健康で安全な過ごし方(登下校も含む)、命を守る方法や生命を尊重する心を大切にした授業や活動を行っていますか。(いじめのない集団づくり、授業、避難訓練、学校保健委員会、性教育、毎月の安全点検) | 3.7 | 3.3 | 3.6 | 3.7 | ○毎月、安全点検を実施し結果や修繕経過を共有することで、施設不備によるけがを防ぐことができています。 ○毎学期の避難訓練やシェイクアウト等に真剣に取り組み、命を守ることや安全に過ごすことについて考える活動を行っている。 ○学級の実態に応じて授業内容を工夫し、道徳、学級活動や人権教育を実施した。(性教育、いのちを大切にする教育等) ○毎月の学校生活アンケートを活用し、児童生徒理解に努めるとともに、困り感を抱いた児童生徒に丁寧かつ迅速に対応した。 ●道徳や「いのちを大切にする」教育等と関連付けた教育活動を行っていく必要がある。あわせて、PTA活動や学習支援ボランティアとの連携も図っていく。 | 3.6 | 3.3 | ○避難訓練などを定期的に実施し、子供たちもよく身に付いている。 ○いじめに繋がる様な言動や行動に対して、先生方が機敏に感じたり、子供たちとの対話を通して改善を図って行く取組が出来ていると感じた。 ○児童生徒が安全で安心して学校生活を送れるよう、引き続き継続的な支援、教育を行うことが重要だと考えます。 |
| 健 康 ・ 安 全 に 関 す る こ と 8 学校は、みんなが、健康を意識した生活(睡眠・食事・運動・メディアコントロール)ができるように、サポートを行っていますか。 | 3.5 | 3.3 | 3.3 | 3.1 | ○健康観察や日記、行動観察を通して、児童生徒の健康状態を確認するとともに教師間で情報共有し児童生徒の実態把握に努めている。 ○外部からの講師を活用したり、養護教諭・栄養教諭と連携したりして、児童生徒の実態に応じた健康教育に取り組むことができた。 ○養護教諭を中心に、歯の治療率アップのために児童生徒及び保護者への啓発に尽力しており、歯の治療についての意識は、児童生徒・保護者ともに確実に高くなっている。(治療率 R4:51.8%、R5:93%) ○保健体育の授業において、体をスムーズに動かすことにつながるビジョントレーニングを継続したり、活動量を確保した授業を展開したりすることで、生涯において運動に親しみ態度の育成を図った。 ○後期プログラムにおいては、隊活動の取組を通して、健康に対する意識の向上と具体的な取組を実施した。その後も実践を継続している生徒の姿も見られ、児童生徒の意識の向上につながっていると考える。 ●児童生徒が「健康を意識した生活を送ることができている」という実像が見えづらいため、家庭と連携し、引き続きサポートを行っていく必要がある。 | 3.3 | 3.1 | ○健康観察や情報共有の充実、外部講師や専門職との連携強化、歯の治療率向上への継続的な取組、保健体育の授業と隊活動の充実、家庭との連携強化などの取組は評価できる。 ○後期ブロックの健康守り隊や学校の健康に対する取組みはよい。後は家庭の問題か。 ○児童生徒が健康を意識した学校生活が送れるよう今後も家庭との継続的な連携サポートを行うことが重要だと考えます。 ○「抑うつ（状態）」について子どもたちが、話を聞く機会があると良いと感じる。 ★眼科検診や内科検診後の再受診率はどうなっていますか。 ★家庭に、より積極的に取り組んでもらえるような工夫はされているのでしょうか。 |
| 保 護 者 ・ 地 域 と の 連 携 に 関 す る こ と 9 学校は、保護者や地域と連携し、ふるさとを愛する気持ちや共助(互いに協力し助け合う)の気持ちを育てる授業や活動を行っていますか。 | 3.6 | 3.1 | 3.4 | 2.9 | ○総合的な学習の時間で地域の特産物、福祉、伝統芸能継承活動、地域課題学習(ちくせん)、ひなた場、ドリームプラン、卒業研究等、保護者や地域と連携した教育活動を実施した。 ○各教科や行事等において地域人材を活用とした学習を実施し、子どもたちの学びを深めることができた。 ○今年度は、学習ボランティアを活用した授業を行ったことで、児童生徒の学びが深まった。さらに、子どもたちが地域の大人を身近に感じることができたことや参加してくださった方々からの子どもたちと触れ合うことができ、楽しかった、元気をもらったとの声が多々あったことから、今後も地域コーディネーターを中心して実施していく。 ○今年度は「ひなた場」を学校独自で実施したことで、柔軟な活動計画を立案・実施してきた。今後は、学校運営協議会と連携しながら、持続可能により充実した取組を行っていく。 ○町の伝統行事であり、本校の大きな行事でもある御田祭では、昨年の反省を生かし、町や保護者と連携して参加の在り方の検討を進めてきたことで安心安全で充実した活動ができた。 ● 地域と連携した活動においては、学習のねらいを地域・保護者・学校が共有し共通理解を図りながら丁寧に進めていきたい。 ●学校の状況も発信しつつ、PTA活動(運営委員会も含む)や参観日等の場を活用し、保護者や地域の情報を収集し持続可能な教育活動を実施していく必要がある。 | 3.3 | 3.1 | ○学校・保護者・地域が連携し、総合的な学習の時間の学習が進められていることは素晴らしいことだと思います。 ○地域コーディネーターを通しての授業サポートは大変よい。今後も活用を増やせるとよい。 ○全体として、学校が地域や保護者と密接に連携し、多様な教育活動を展開していることが評価できます。特に、地域人材の活用や伝統行事への参加を通じて、子どもたちが地域社会とのつながりを深めている点は大きな成果です。 ○今後もさらに地域・保護者・学校間の共通理解を深め、持続可能な連携体制を構築することが挙げられます。また、情報発信と収集を積極的に行い、地域や保護者との双方のコミュニケーションを強化することが重要だと考えます。 ○生徒数の減少もですし、保護者の協力も限界があると思います。生徒の皆さんのが楽しめて参加できる様にしてもらいたいと思います。 ●地域の人の学校行事参画は、学校としては当たり前ととらず、毎年代表の方々と打ち合わせを行って実施したほうが良いと思われた。(特に若宮神楽、上の原白太鼓) |
| 10 学校は、学校便りやHP、マチコミ、学級通信等を活用して必要な情報を発信していると思いますか。 | 3.7 | 3.5 | 3.5 | 3.4 | ○文書配付に加え、重要な連絡事項はマチコミ等で重ねて連絡している。 ○学校だよりや学級通信を定期的に発行し、タイミングを逃さない発信を行っている。 ●月行事、週案の保護者への配付について発信対象者や発信方法等を整理し周知を図っていく。 ●感染症の罹患状況については、状況を把握しながらマチコミや保健だより等を活用して発信していく。 ●効果的なHPの運用を引き続き考えていく。 | 3.5 | 3.1 | ○学校便り、学級通信は内容がよく分かりやすい。更新が多い月と少ない月があるがHPも頑張ってる。 ○情報発信の取り組みは、学校と保護者・地域との信頼関係を築く上で重要な役割を果たしています。デジタルベース、ペーパーベース共に今後のさらなる改善と発展を期待しています。 ○学校だよりは、地域に回覧されているので目になりますが、ホームページやマチコミは外部からは、なかなか見にいけていない。せっかく、知ることができるツールなので運営協議会委員として受信するようにしたい。 |